

百花繚乱のリゾート開発

岡山県大連ビジネスサポートデスク 岡野涼子

5 月から 6 月にかけて、遼寧省では省内各都市のプロモーションセミナーが次々と開催されました。特に瀋陽を中心とする周辺都市を対象とした国家級の経済区政策がクローズアップされ、マグネサイト等の鉱物資源、港湾、高速鉄道やライトレールといった交通インフラ建設の進行状況等が紹介されました。

過去の誘致活動では工業区の宣伝に大幅な時間を割き、商業区・娯楽施設は付随的なものであって、中でも本格的なリゾート開発と思えるものは希少でしたが、現在では生活環境の充実を PR する上で欠かせない上に、所得が上昇し、現地住民の需要が見込まれることを背景に交通・生活インフラの建設やリゾート開発に本腰を入れています。中国では習慣上、シャワーが主体であるものの大連では日本人のみならず日本に留学・駐在した人も多いことから日本式温泉も複数開業しています。隣接する営口市や更に西に位置する盤錦市、瀋陽と大連の中間に位置し鉄鋼産業で有名な鞍山市でも投資と観光客誘致の一举両得プロジェクトとして温泉開発を取り上げています。かたや日本の温泉リゾートは映画やドラマを通じて知られており、日本の自治体が観光誘致をする場合はショッピングや花見と並ぶ“目玉商品”になっている為、日本の同業種ノウハウに対する関心は高まっている状況です。

また、遼寧省の海岸線は約 2000 キロを超えており、大規模な港湾開発とともに海水浴場の大々的な開発が各地で進んでいます。四方を海に囲まれた日本と違い、広大な面積を有する中国では、居住する地域によってはテレビやネットではなく、本物の海に接する機会が一生得られないこともあるため、海水浴場は内陸部の人々にとって非常に魅力的なリゾート地となります。

その他、最近では「環境保護レストラン」と銘打った大型飲食店が見受けられるようになりました。ガラス張りの倉庫型の巨大な建物に庭園を演出し人工河川を造成、魚やアシカが遊泳するのを眺めつつ食事をする形式で、広大な土地を上手く活かした地方都市型レストランといえます。

高速鉄道を利用すれば北京・瀋陽間は 4~5 時間、長春・瀋陽間は 2 時間で往来が可能であり、瀋陽周辺都市 2400 万人、ある統計によれば、遼寧省内の GDP の 75% を占める経済規模と、遼寧省内にとどまらない人の流れを意識した開発といえますが、気になるのはメンテナンスです。温泉・レストランとも衛生管理レベルを維持したままで長期運営が実現できれば、一過性ではないリゾート開発が成功したといえるのではないのでしょうか。



(左) 営口市で開発中の海水浴場と水上イベントホール

市内より高速で約 1 時間の開発区エリアに位置し、高級ホテル誘致に成功した。大連よりも身近な東北の海水浴場として人気が出始めている。周辺には港湾を見渡せる展望台があり、50 を超えるガントリークレーンを一望できるため、ビジネスツアーの定番コースとなっている。